

ICT 活用の理論と実践	担当教員：奥村 稔	1 単位
設 題		
<p>課題として、以下の「課題1」と「課題2」を示します。 レポートを作成する際には、それぞれの「観点」を十分に参考にして、論理的に分かりやすく、そしてなるべく具体的に書くよう心掛けてください。</p> <p>課題1： 情報機器活用の経験について あなたが学校の授業や仕事をするなどの「学習活動」の中で、いわゆる（レガシーな教材や教具以外の）情報機器（複数の組み合わせもありうる）を利用した経験から何か一つを取り上げて、それがどのように活用されて、どのような効果があったのかについてレポートしてください。 もし、あなたにそのような「学習活動」経験がないのだとしたら、これまでの授業や仕事経験の中から一場面を取り上げて、そのときにどのような情報機器の活用があれば、どのように効率的で効果的活動に改善できそうかをレポートしてください。</p> <p>課題1の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① どんなときに、どんな場所で、誰のもとで、何を利用したのか（活用状況） ② 誰と活用したのか（全員・グループ・個別などの活用形態） ③ どのように活用したのか（活用方法） ④ どんなことのために利用したのか（活用目的） ⑤ 結果としてどうであったか（目的達成度） ⑥ その他、全体的な考察など <p>課題2 ICT活用の意義について 本講「ICT活用の理論と実践」での学びを通して、教育においてICTを活用することにはどのような意義がある（あるいは、ない）と考えますか。その考えをレポートしてください。 この場合の主張として意義が「ある、ない」を評価することはありません。あなたのこれまでの経験や立場などによっていろいろな考え方があることを理解しています。論拠を明確にすることが重要です。</p> <p>課題2の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① そのように考える根拠をあきらかにする。 ② あなたの現在の理解の上に立って考えたとき、より望ましい活用をするためには、さらにどのようなことが工夫による改善をおこなうことができるだろうか。 ③ そのことで児童生徒、そして私たちの学びはどのような変容をとげるのだろうか。 ④ その他、夢と想像を膨らませて自由に。 <p>以上です。</p>		
作成方法は「ワープロ」		
ワープロ	用 紙 等：本学通信教育部の標準フォーマット	
文字数等	特に定めませんが、課題のそれぞれの観点を十分に踏まえたものであること。	